

ケイセイマサキ建設株式会社（新冠町）

1988年(昭和63年)創業。「建設業を通じて地域に夢を与える」という理念の下、公共土木建築工事、牧場営繕、東日本大震災復興、不動産開発事業に携わってきた。また、再生可能エネルギーの設計・施工を行うほか、自ら発電事業にも取り組む。 URL: <http://www.keiseimasaki.jp>

ZERO CARBON ゼロカーボンの取組

○建設工事現場の脱炭素化の推進

現場での再生可能エネルギーの活用など、建設工事における環境配慮の取組を進めています。

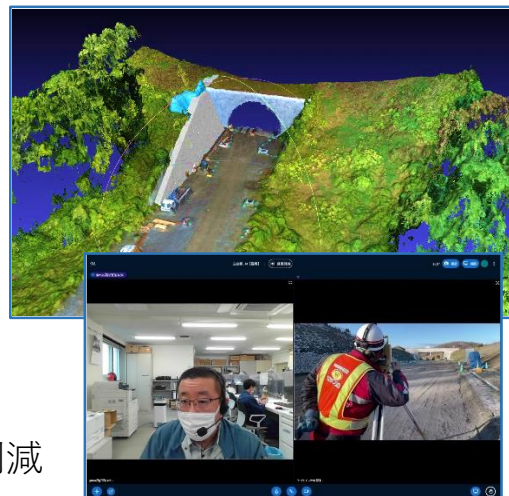
【取組の例】

① ICT活用による効率アップ

3次元設計データに基づいて出来形管理や重機の動作を制御するICT施工や、ドローン等を用いた工事検査時の遠隔臨場を積極的に取り入れ、車両による往来を削減しています。

- ・ICT施工による効果：
省力化、工期短縮に伴うCO2排出量の削減
- ・遠隔監視、遠隔臨場による効果：

200kg-CO2/年の排出削減※1



▲上：3次元設計データ
▲下：遠隔臨場

②現場事務所における 太陽光発電の利用

現場に太陽光パネルを設置し、現地事務所や現場の照明の電力の一部として使用しています。

効果：4,000kg-CO2/年の排出削減※2



▲現場用の太陽光パネル

※1
年間に20回の監視及び検査業務を遠隔化
→**自動車の走行距離を計1,200km削減**
(本社から現場まで平均往復移動距離60km、
自動車の燃費15km/Lの想定)

※2
容量3.64kwの太陽光パネルを1年間にのべ600日設置
→**6,592kWhを発電し、購入する電気を置換**
(日射量を3.43kWh/m²・日、購入する電力の排出係数を0.601kg-
co₂/kWh(北海道電力株)の2021年度の値)、発電設備の総合
設計係数を88%、標準日射強度を1kW/m²として計算)

・二酸化炭素排出削減効果等の数値は、以下に基づき道にて算出
「特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令」(経済産業省・環境省)

ゼロカーボンの取組

○再生可能エネルギー設備の 設計・施工

2016年から始めた太陽光発電の設計・施工業務では、これまでに21件の実績があり、そのノウハウを生かし、自社施工による発電事業も行い、グループ企業合計で年間約6,400MWhの規模まで拡大してきました（2021年度FIT売電実績）。これは、家庭で消費される電気の1,800世帯分（新冠町の世帯数の66%）に相当します。

また、風力発電の設計・施工も行っており、2022年には、新冠町で自社発電所として初めてとなる、風力発電所(20kW級)をFIT電源として、運用を開始しました。



▲設計・施工した太陽光発電所



▲自社の風力発電所

特に力を入れていること 工夫している点

建設分野のICTは、ローカル企業・中小企業への普及が課題となっています。ケイセイマサキ建設(株)では、環境負荷軽減や働き方改革の観点からも大きなメリットがあるものと考え、2022年には社内に「DX推進室」を創設し、ICTの迅速な導入を進めてきました。その結果、業務の効率化が図られ、従業員のモチベーション向上にもつながっています。

今後の目標・取組

「国土強靱化集団」として、地元・日高の豊かな自然を生かしたクリーンエネルギーの拡大に貢献します。

取組の積み重ねを積極的に地域に還元し、より地域に求められる企業として成長を続けていきます。